

自覚を持って学習しよう

—自覚を持つことが学力向上の基本—

開倫塾

塾長 林 明夫

—ごあいさつ—

私は、開倫塾の創業者で塾長の林です。皆さん、開倫塾の冬期講習会にようこそいらっしゃいました。開倫塾を代表して心から歓迎いたします。

冬期講習会に臨むにあたり、学力向上のコツをわかりやすく Q and A の形でご説明します。何回も繰り返してお読みになり、よく納得したら、焦ることなく 1 つずつ、また、少しずつ実行してください。必ず学力は向上しますよ。では、始まりです。

Q 1 : 学力向上の基本は何ですか。

A : (1) 自覚を持って学習することです。

(2) 「自覚」とは…

自分の現在いる位置、自分が現在置かれている立場で自分の実力、能力、価値、義務、社会的使命を感じ、悟り、はっきりと認識することです。

(3) 「自覚を持って学習する」とは…

自分の立場をよく知り、目的を明確に持って学習することです。

Q 2 : 例えばどういうことですか。

A : (1) 新年になって受験をする受験生は、受験生としての自覚を持って学習することです。

(2) 大切なのは、何のために受験するのかを自分の力で考えることです。合格は単に手段に過ぎません。高校や大学に合格することだけを目的にすることは止めましょう。高校や大学に進学して何をするのかという目的が大事です。

(3) もっと大事なのは、高校や大学を卒業して社会に出てから何がしたいのかということです。高校や大学を卒業して社会に出てから、自分のため、家族のため、社会のために何がしたいのか。どのような一生、人生を送りたいのかを自分の力で考えることが大切です。

(4) そのためには、自分自身をよく知り、また、現在の社会の問題やこれからの社会の課題をよく知ることが大切です。

Q 3 : 自分自身をよく知るためには、どうしたらよいですか。

A : (1) 自分自身のことをよく知るためには、いろいろな人とよく語り合うことも大事ですが、私は質の高い本をじっくりと読むこと、本格的な読書をお勧めします。学校の各教科の教科書で紹介されているような作者や筆者の本、特に「古典」と呼ばれる本を腰をすえてじっくりと繰り返し読む。時間と空間を越えて作者・筆者と対話をするように本(特に古典)を読むことをお勧めします。読書とは時空を越えた古典との対話であると私は考えます。

(2)本格的な読書をする人は学力が高いと私は考えます。その理由は、本格的な読書により「思慮深さ(しりょぶかさ)」が身に着くからです。古典を中心とした読書に励む人は考え方がしっかりします。また、読書に励む人はことばの数が多いです。身に着けていることばの数、語彙数(ごいすう)が多いために、教科書や参考書、問題集、試験問題を読んでもそこに書いてあることがよくわかります。学校や開倫塾の先生方の授業を聞いても先生方がお話していることがよくわかります。

(3)このように、古典を中心とした読書により、ものごとを深く考える力、思慮深さを身に着けることができます。また、ことばの数を大幅に増やし、学力を身に着けることができます。人生についての自分の考えをしっかりと持ち、自覚を持って生きるのに読書は欠かせません。

Q 4 : 古典とは何ですか。

A : (1)日本や世界の人々から何十年、何百年も読み継がれた本を古典と言います。学校で学ぶすべての教科書には、教科ごとに古典と呼ばれる本やその作者・筆者が紹介されています。教科書を読み、また、先生方からの授業で興味を持った本や作者・筆者の古典を学校の図書室、市や町の図書館で手に取り実際に読んでみてくださいね。お金に少し余裕があったら書店で買い求め、自分の本として一生読み続けてください。

(2)私のお勧めする古典の一つは、孔子の教えを弟子たちがまとめた「論語」です。ファラディの「ろうそくの科学」やシュリーマンの「古代への情熱」もお勧めです。伝記で一番面白いのは福澤諭吉の「福翁自伝」。講演速記録でためになるのは内村鑑三の「代表的日本人」と「後世への最大遺物・デンマーク国の話」です。小説で面白いのは夏目漱石の作品。エッセイは吉田兼好の「徒然草」と松尾芭蕉の「奥の細道」、世阿弥(ぜあみ)の「花伝書」、宮本武蔵の「五輪書(ごりんのしょ)」です。中学校や高校のときに教科書で紹介された本や作者・筆者ばかりですが、とても面白く、また、役に立ちます。

Q 5 : 「読書」以外に、「自覚を持って学習する」のに役に立つものはありますか。

A : (1)「新聞を読み自分で考える力、批判的思考能力を身に着けること」です。

(2)「新聞は社会の番犬(watch dog ワッチ・ドッグ)」。社会に問題があれば、ここに問題があるとワンワンと大きな声で吠え、問題の所在を社会に知らせることが「新聞の社会的使命(mission、ミッション)」です。

(3)新聞を毎日1ページから最終ページまでなめるように丹念(たんねん)に読み通す習慣が身に着くと、地域や日本、世界で現在何が起きているのか、現在の問題とは何かをよく知ることができます。また、近い将来この世の中がどのようなになるのか、地域や日本、世界が知恵を絞って解決しなければならない課題とは何かを知ることができます。

(4)自分の人生を考えるときに、自分自身や家族のために何ができるかと同じような大切さで、地域や日本、世界の現在の問題を解決するために、また、将来の課題を解決するために自分としてやってみたいことを新聞を読んで考えることができます。

(5)新聞を読んで地域や日本、世界などの社会の問題や課題を知り、その解決のために自分は何ができるかを考えることは、自覚を持って学習する上で役に立ちます。

(6)新聞を毎日読んでいる人は、大量の新しい文章を速いスピードで読む能力が高いですから、

教科書や参考書、問題集、試験問題の文章を読む能力も高く、学力も高いと言えます。新聞を毎日読んでいる人の偏差値は極めて高いようです。(ことばは力。語彙数は高い学力に直結しますから、読書と同様に、新聞は学力を高めることにもとても役に立ちます。私は、学力を急激に上昇させたければ、各教科の学習と同じエネルギーを用いて読書に励み、新聞を毎日読むことをお勧めします。)

Q 6 : 最後に一言どうぞ。

A : (1)「自覚を持って学習」する人は学習の大切さがよくわかっていますので、「学習時間を長くする工夫」と「学習方法を工夫」する努力をスタートします。

(2)開倫塾では、空いている机や椅子があったら自習用にお使いいただけることになっています。家で学習することが難しい塾生は、先生の勤務時間内(夜は 10 時 30 分まで。それ以降は自宅で学習してください)に、先生の許可を得て自習を認めますので、ご利用ください。

(3)ただし、開倫塾の先生の指定した教材と学習方法以外での自習は認めませんので、自宅で行ってください。(ケータイやスマホ、ゲームなど学習以外の行動は厳禁です)

(4)どのように学習すれば学力が飛躍的に向上するのか、効果の上がる学習方法は、私が取りまとめた開倫塾の「学習の 3 段階理論」を参考にしてください。

①予習の仕方

②辞書の活用の仕方

③ノートの活用の仕方

④授業の受け方

⑤復習の仕方

⑥音読、書き取り、計算・問題練習の仕方

⑦過去問の学習の仕方

現在の成績・偏差値に関係なく、学力を一気に飛躍的に上昇させる学習の方法が詳細に示されています。時間をかけてこのとおりに学習すれば、医学部にも、また、東京大学にも合格できます。自分の人生の目的を実現するために役に立つのが「学習の 3 段階理論」です。

(5)学力が身に着き、成績が上昇してくると、「人生の選択肢」が一気に増えます。人生の選択肢を自分自身の手で増やし、自分自身の人生をよりよきものとしてください。そのために、この冬期講習会を大いに活用なさることを期待します。

以上